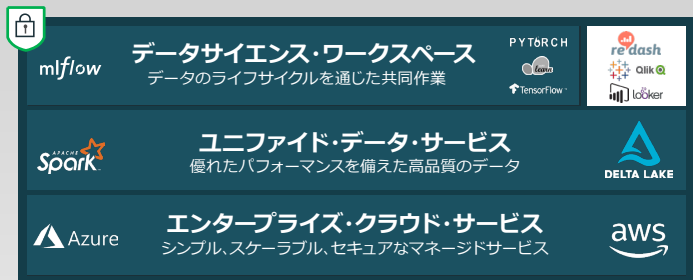


# プロジェクト毎に最適なデータ分析基盤を構築する中で、Databricksの統合データ分析基盤を活用。

## GiXo

株式会社ギックスは、日本IBMに所属していた3名の戦略コンサルタントが、2012年に創業し、戦略コンサルティングとアナリティクスの両分野に強みを持つ、新興のコンサルティングファームである。特徴としては、コンサルティングやデータ分析による提言にとどまらず、クライアントの実業務への活用まで支援をするために、システム開発まで請け負う点である。また、これまでの業務やシステム構築のノウハウを活かし、エリア情報を可視化する「トチカチ」、個客選択型スタンプラリーを提供する「マイグル」といった、自社のSaaSサービスの展開もしている点もユニークである。

### データブリックスの統合データ分析基盤



(写真・左)  
株式会社ギックス  
Enabling 事業本部  
Technology Division  
ディビジョン・リード  
柳 優樹 氏

(写真・右)  
株式会社ギックス  
Enabling 事業本部  
アシスタントマネージャー  
奥田 勇氣 氏

### ハイライト

使い勝手が良く、  
インフラの  
セットアップが簡単！

データ量にコストが  
比例せず、且つ  
コンピューティング  
リソースを柔軟に  
拡張できる！

プロジェクトコストを  
抑えられる、  
従量課金制！

### 課題

分析したいデータを一元的に収集、加工、分析することが非常に難しい状況。  
データ分析プロジェクトにおいては、非構造データを扱うケースも増えてきている。

同社 Enabling 事業本部 Technology Division に所属する 柳 優樹氏と奥田 勇氣氏のミッションは、データ分析プロジェクトによる提言を、クライアントの日々の業務に組み

込んでもらうための仕組みづくりである。柳氏は、同Divisionのリードとして、全体のプロジェクトやチームの管理に従事している。奥田氏はデータ・エンジニアとして、テクニカルな観

点で各プロジェクトをサポートしており、分析プラットフォームの構築/運用やデータパイプラインの管理を行っている。

両氏が日々の業務を進める中で、多くの企業がデータのサイロ化という課題に直面していることを実感している。もともと、システムやアプリケーションは、それぞれの目的のため構築され、個別最適化がなされているため、複数のデータを組み合わせたり、同時に加工するようなことを想定していないからである。その結果として、分析したいデータを一元的に収集、加工、分析することが非常に難しい状況となってしまう

ている。また、日本でこのデータとAIの分野は発展途上のため、データやAI活用に漠然とした大きな期待だけを持っている企業も少なくない。

データ分析プロジェクトの傾向としては、データウェアハウスが扱う構造化データに加えて、IoTやデジタル化の加速によって急速に増加している非構造化データを扱うケースも増えてきている。また、データソースとしてもクライアント企業が有するデータのみではなく、3rdパーティのデータの活用も活発になってきている。

### 比較検討

## 主な採用理由は3つ。「簡単なセットアップ」「分離されたストレージとコンピューティングリソース」そして「従量課金性」

ギックス社では、各クライアントのプロジェクト毎に、最適なデータ分析基盤を構築している。その中で、データブリックスの統合データ分析基盤を活用することを決めた。採用理由は主に3つである。1つ目は、使い勝手が良く、インフラのセットアップが簡単である点だ。オープンソースのSparkを活用してクラウドサービスのIaaS上に機械学習のプラットフォームを構築することも可能であるが、工数がかかりすぎてしまい、本来のデータ分析へかけるリソースが減ってしまう。また、運用という観点でも、試験的に作成したモデルを、すぐに商用に展開することができる点も高く評価している。2つ目は、ストレージとコンピューティングリソースをアーキテクチャ的に分離している点である。その為、データ量にコストが比例せず、且つコン

ピューティングリソースを柔軟に拡張することができる。そして、3つ目が、従量課金制である。クライアントのプロジェクト毎にプラットフォームを構築するという点もあるが、利用した分だけの課金というシステムは、プロジェクトコストを抑え、クライアントへ納品後も、クライアント自身での運用において理解を得やすい。細かいところでは、使っていないインスタンスは自動で落ち、不要な課金が発生しない点も助かっている。

### 今後の期待

## 自社SaaSへの適応や、一元管理が可能なDelta Lakeの採用も検討したい。

今回のデータブリックスの採用により、様々なデータ分析プロジェクトに適応可能なテンプレートが完成した。今後は、自社SaaSへのデータブリックスの適応や、多種多様なデータを

デルタフォーマット化して一元管理が可能なDelta Lakeの採用も検討してく予定である。